

【香川県三豊市】 校務 DX 計画

1. 校務系・学習系ネットワークの統合

(1) ゼロトラストネットワーク構築

令和 6 年 9 月に新たなネットワークの運用を開始する。これにより、これまで校務と学習の 2 台に分けて行っていた業務が、1 台の端末で行えるようになり、より活用に適した環境で、これまで以上に校務 DX の加速が見込める。

(2) 次世代校務支援システムの整備

令和 6 年 9 月にフルクラウド統合型校務支援システムを整備する。これによりロケーションフリーでの校務作業や、各種外部システムとの連携が可能で、これまで多大な作業を要していた名簿管理などの効率化や教職員の業務負担の軽減を実現した。令和 10 年度には、県域での共同整備が予定されている。

2. ペーパーレス化と効率化

校務のペーパーレス化と効率化に向け、学校・教育委員会が連携して以下の内容に取り組んでいる。

- 学校と児童生徒間でのデータ共有については、クラスルームアプリを活用している。
- 学校と保護者間でのデータ共有や欠席連絡、アンケート調査等も、学校ホームページ及び保護者連絡アプリを活用している。
- 市教育委員会と学校間でのデータ共有については、校務支援システムや Google Workspace を活用している。
- 教育ダッシュボードの構築は、校務支援システムや学習 e ポータルで整備・運用を検討する。これにより、児童生徒の出欠席や成績情報などの校務データ、AIドリルや授業支援ソフトでの学習ログの双方を掛け合わせたデータ連携による分析や可視化を実現させていく。
- 校務の効率化及び質の向上に向け、国の実証研究や身近な県内市内の事例などを展開し、市の運用にあった独自の活用ガイドラインの策定を予定している。
- 中学校ではデジタル採点システムを導入し、採点業務の効率化を図っている。

今後更に Google Workspace の活用を徹底し、職員や学校間でのコミュニケーションや資料共有も、さらなるペーパーレス化と効率化を図っていく。

3. FAX 及び押印の見直し

学校-学校間、学校-教育委員会間での文書連絡・資料送付については、校務支援システム内のグループウェアにてほぼすべて対応している。

FAX は、国の KPI で設定された令和 7 年度の原則廃止に対応し、かなりの数を減らすことができた。

各種押印が必要な帳票については、校務支援システム導入時の令和 2 年より随時見直しをしてきた。今後も引き続き、徹底を行いたい。